

西面回廊北寄り軟弱地盤に関する対応

〈前提条件〉西面回廊全長317mのうち北寄り189mは地盤が「圧密沈下」や「液状化」する可能性があるため、地盤改良なしには建造物の復元は困難。

①	整備内容	長所	短所	厳正な	圍繞空間	軟弱地盤	防犯面	総合評価	備考
				復元	の明示	上に建設			
①	基壇+礎石+築地+建造物	・忠実な復元が可能 ・圍繞空間の実物大意匠表現が可能	・法律的に安全と認められるか要検討 ・荷重による遺構への影響が大きい	◎	◎	×~△	◎	△	(平城宮跡における整備事例など) 宮内省築地、朱雀門
②	基壇+礎石+築地(鉄骨造)+建造物	・圍繞空間の実物大意匠表現が可能 ・築地荷重が軽減できる ・築地内部を活用できる	・法律的に安全と認められるか要検討	○	◎	△~○	◎	○	朱雀門大垣、東院大垣
③	基壇+礎石+植栽	・基壇・礎石に限り実物大意匠表現が可能 ・圍繞範囲の認識は可能 ・建造物に比べ、地震時には安全か	・植栽高さ7mの維持が難しい ・植栽の間(高木の場合は特に下部)に隙間が生じる	△	△	○	△	△	朱雀門大垣の両脇、内裏大垣ほか
④	基壇+礎石+柵ないし塀	・基壇・礎石に限り実物大意匠表現が可能 ・圍繞範囲の認識はおおむね可能 ・建造物に比べ、地震時には安全か	・管理活用部分が不足するおそれがある ・遠くから視認しにくい ・復元建物と混同されるおそれがある	×	○	○	○	△	(大極殿院修景柵)
⑤	基壇+礎石	・基壇・礎石に限り実物大意匠表現が可能 ・平面的な範囲の認識は可	・遠くからは視認できない ・管理上の安全確保の問題がある	△	×	◎	×	△	第二次大極殿・後殿、佐伯門、壬生門ほか

西面回廊北寄り軟弱地盤に関する対応

(第一次大極殿院地区復元基本設計準備 平成14年度 復原案に基づく作図)

